臨川小だより

２月号
令和６年１月３１日
渋谷区立臨川小学校

２月に入ります

校長　河口尚志

なわとび週間開始

年が明けてもうひと月が過ぎ、はや２月を迎えました。
昔から「一月往(い)ぬる二月逃げる三月去る」と言われます。
年が明けると様々な行事があり、それに追われて時間が経つのが早く感じることを意味しています。だからこそ、「時は金なり」です。時間を大切に使いたいものです。
ある書物によると、時間を有効に使うには１日の計画を立てること、しかもそれを紙に書き、読みあげるとよいと言われています。紙に書き、読みあげることでそれを見たり、意識したりすることができます。達成できた時の喜びも味わえます。試してみましたが、なるほどその通り、有効でした。目標を立てる→書く→読みあげる、皆さんも試してみてはいかがですか。

さて、今回は「自立」と「自律」について考えてみたいと思います。
「自立」とは、辞書によると、「他への従属から独り立ちをすること」とあります。
一般論ではなく、教育、子育てという観点からこの文言を解釈すると、例えば、幼児が親にすべてを頼っていた時期から、少しずつ自分でできるようになること、また、親に頼らずに自分ですべてを判断し、行動できることなどを示していると考えます。
あるいは、自分で仕事に就き、生計を立てることができていることを指す場合もあります。
つまり、他からの関与がなくても独り立ちができるようになること、これが「自立」です。
一方、「自律」とは、「自分自身が立てた規範に従って行動すること」とあります。
これは、自分が判断したルールに従って行動できることです。

外国語　留学生に日本を紹介しよう

しかし、自分自身で自由に立てればよいか、そうではなく、社会でのルール、一般常識からやはり外れるものであってはいけません。
しかし、一般的に、社会の通例や常識よりも自分で立てたものがルール、自分がよければそれでよいという自己中心的な考えの下に行動している若者たちが増えていると言われています。
これが自律であるならば、将来の社会は実に憂うべきものになってしまうでしょう。
自身が立てた規範とは、それまでに子供が学び、身に付けてきた経験からくる規範でなければなりません。子供の頃から多くの経験を通して、規範意識、社会性、思いやり、常識等々をきちんと学ぶことが必要です。
そのためには、地域や学校、保護者である大人がしっかりと規範を教え、導いていくことが大切です。
何がよくて何がよくないかを子供に気付かせ、何がよくて何がよくないかを自分で判断できること、そしてよくないと判断したならばそれを自分自身で律することができること、それが「自律」であると考えます。
今一度、家庭、地域、学校で「自律」について考え、それぞれの役割を確認し、協働の精神で今一歩踏み込んで対応できればと思います。学校という集団生活でのルールを徹底するとともに、家庭でのルールを確認していただきたいと思います。

シブヤ未来科発表